

札幌市立大学長期ビジョン ～ Arts & Sciences志向で未来のダ・ヴィンチやナイチンゲールを育てる～

I はじめに

- ダ・ヴィンチは芸術家であると同時に工学や解剖学などに精通しており、多分野の知を融合させる能力も高く、多くの分野にイノベーションを起こした人物である。
- ナイチンゲールは近代看護の創設者であり、統計学的根拠に基づいた公衆衛生を取り入れるとともに、世界初の看護学校の設置や病院建設など医療制度の改革に大きく貢献した人物である。
- 本学は、彼らのように、自身の専門性に加え異分野の視点を持ち合わせる複眼思考を備え、新たな価値を創造する人材を育成する。
- 世界は今、大きな変革期を迎えている。現代社会においてAI・ITの技術は飛躍的な進歩を遂げており、身につけるべき専門知識はすぐに塗り替えられていく。
- 本学は、開学から取り組んできたデザインと看護の横断連携に、AI・ITとリベラルアーツ(本学では、「学ぼうとする態度」と解釈する)を強力に連結させ、Arts & Sciences※を推進し、北海道の地域特性である広域分散・積雪寒冷等の諸課題、さらには社会情勢の激しい変化やグローバルな課題解決に貢献する、時代の先を行く大学であり続ける。

※ Arts & Sciences : 「創ること」と「分析すること」を往還させながら、課題の本質に迫る知の枠組み。

II 位置づけ

この長期ビジョンは、今後10年間(2026～2035年)を集中改革期間と定め、時代の先を行く大学を未来像に、これを実現する取組の方向性をまとめたものである。

※ 現段階での長期的な展望をまとめたものであり、次期中期計画策定にあたっては急速な社会情勢の変化に応じ、引き続き新たな要素による検討も行う。

III 策定の背景

1 これまでの主な成果

<デザイン・看護・AIT分野連携(DNA連携)>

- 2006年に開学した札幌市立大学は、デザイン学部と看護学部の2学部体制で、研究・教育・地域貢献に取り組んできた。
- 2022年4月にはAITセンターを設置し、DesignとNursingをAI・ITが下支えする「DNA」により、先進的な研究や教育の質の更なる向上を推進してきた。

<研究>

- 研究支援地域連携センターを中心に本学における研究活動、地域貢献及び国内外のネットワークの形成推進を図ってきた。
- 横断的な研究を奨励し、支援するとともに、札幌のまちづくり事業や企業・研究機関の研究開発プロジェクトへ積極的に参画するなど、本学の有する研究成果等の知的資産を積極的に地域に還元・発信してきた。
- 開学以来、円山動物園との協働を通じて施設改修やサインデザインなどの監修に取り組み、動物園の魅力向上に継続的に貢献してきた。

<教育>

- デザイン分野では幅広いデザイン能力を持った人材を、看護分野では医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し多職種と連携できる人材を育成してきた。
- AI・ITの浸透に代表されるような急速かつ大きな社会変化に適切に対応し、自ら課題を発見して解決策を導き出すことで新しい価値を創造できる人材の育成のため、2024年11月には全学的なリベラルアーツ教育の推進を担うリベラルアーツセンターを設置した。

<地域貢献>

- 2013～2017年度に実施したCOC事業は地域を学び場とする基盤を整え、大学を地域に開く取組に寄与した。
- 本学の教育資源を活かした社会人教育など幅広い人材育成講座を開催してきた。
- 看護コンソーシアムの取組は「日経リスティングアワード2024」にて審査委員特別賞を受賞し、医療業界のリスティングの貴重な実践例として評価された。

2 本学をとりまく環境と重視すべき観点

<研究>

- 札幌市が多様で複雑な社会課題を抱え、自然・社会環境の変化を背景に新たな研究ニーズが高まる中、これらに対応するためには、科学的・技術的な知見の深化や複数の学問分野を組み合わせたアプローチが重要である。
- DNA連携は、複雑な課題に多角的にアプローチし、研究の質と社会実装力の向上を後押しする。
- 札幌市における社会課題の解決手法については、他地域においても応用できる可能性を持つため、地域を起点に、国内外への展開も視野に入れた発信が重要である。

<教育>

- 急速に社会情勢が変化している中、AI・ITなど常に新しい知識や技術を柔軟に活用し、問題発見・解決力、的確な予測、革新性等を備えた人材が一層求められる。
- 専門教育においては深いレベルかつ従来の専攻を超えた幅広い教育が求められるとともに、分野を超えた専門知の組合せが重要である。
- リベラルアーツ教育は、異分野連携の価値をさらに高め、学生が他分野へ視野を広げながら新たな能力を育む学びを支える。
- 地域に開かれた本学の特性は、実際の地域課題に触れながら学びを深める教育実践を可能にする。

<地域貢献>

- 社会の変化が激しい時代において、社会人が必要とされる知識・スキル、態度及び価値観を身に付け、それらを適切に更新していくことが求められる。
- 教育・研究活動を通じた成果の発信と知的資源の蓄積を進めるとともに、リカレント教育・リスティングの推進が重要である。

<大学運営>

- 研究成果の積極的な発信は、優秀な研究者の集積を促し、企業や自治体との連携を推進させるための基盤であり、研究機関として存在感を高めるためには重要である。
- 教職協働により新たな挑戦を可能にする運営体制を築き、発信力や外部機関との協働を促進できる仕組みへの発展が重要である。

IV 目指すべき大学の姿

研究

北海道・札幌の社会課題をフィールドに
デザイン・看護・AIT分野連携(DNA連携)で課題の本質に挑み、
世界とつながる実践的な知を創出

教育

リベラルアーツを育み、デザイン・看護に加え、AI・ITをはじめとする
新たな力を身につけ続け、地域課題の本質に挑む人材を育成

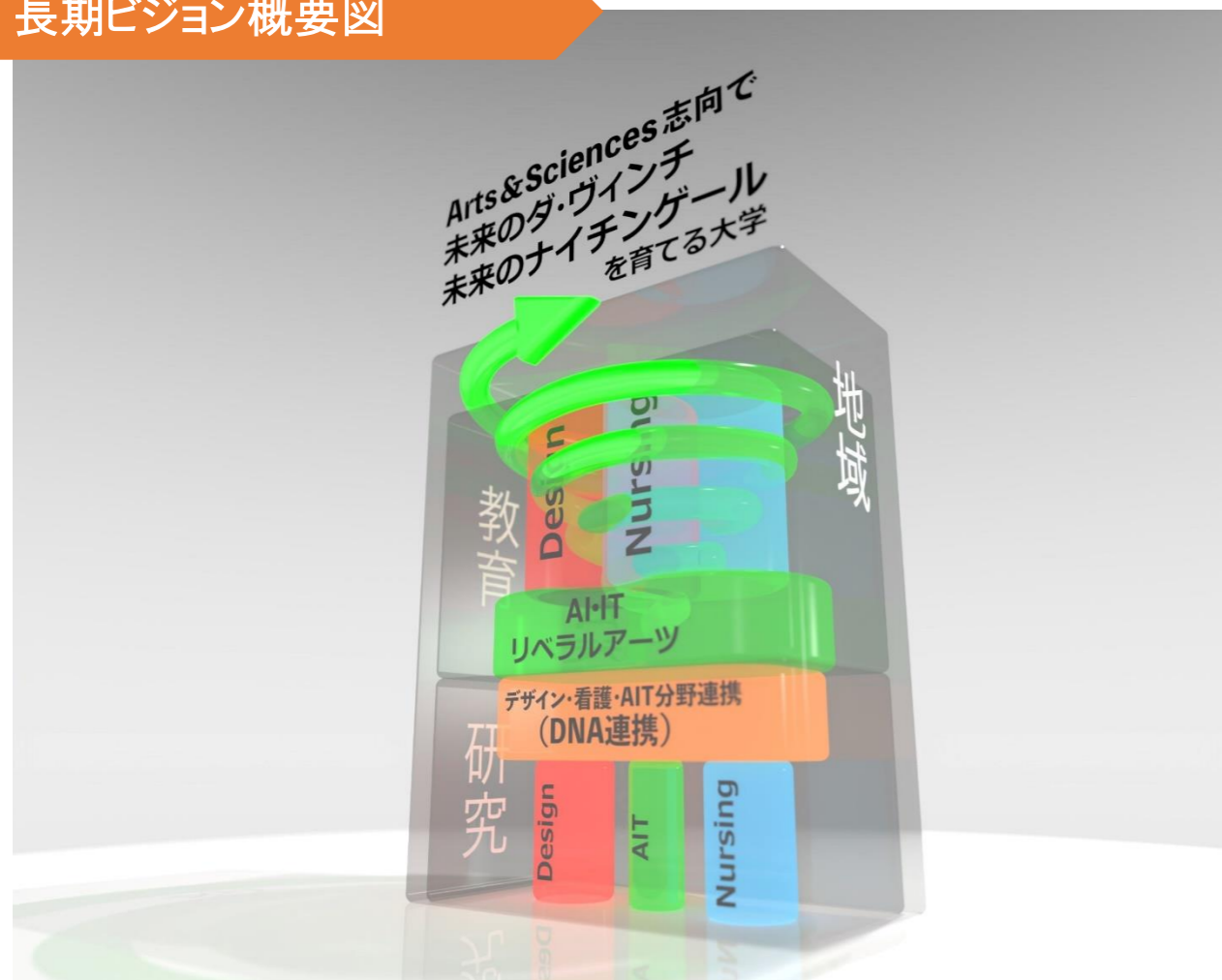
地域貢献

教育・研究で培った知と実践を地域に開くとともに、
社会人の学びを支える拠点を形成

大学運営

教育・研究・地域貢献を基盤に、社会からの高い信頼を得ながら
プレゼンスの向上を図り、人と知が集まる大学を構築

V 長期ビジョン概要図



VI 重点取組事項

研究

人間の体験から社会発展に資する新たな知を生み出す

- **Well-being**: 札幌の環境・生活・健康を統合的に捉え、暮らしの質を高める研究を展開する。
- **Living**: 都市UX・ケア・移動・防災などの地域課題に対し、フィールド実証に基づく研究を推進する。
- **Intelligence**: AI・IT・データ基盤・デザインの融合により、都市運営・医療福祉・地域循環などの高度化に資する知を創出する。
- **Co-creation**: 市民、企業、行政と協働する共創型研究を推進する。
- **Global**: 札幌を冬の生活文化研究の拠点として、地域課題を国際的な研究テーマへと展開する。

教育

未知の状況から新たな価値を生み出す人を育てる

- **Understanding**: リベラルアーツを基盤に、人間・環境を深く観察し捉え、自ら問いを立てる力を育む。
- **Designing**: 社会連携PBL(Project Based Learning)により、課題解決へ導く型・形にする力を育む。
- **Intelligence**: DNA連携教育などにより、医療・福祉・都市サービスなどへ応用可能なデータとAI・ITを使いこなす力を育む。
- **Co-creation**: 多主体との協働を通じ、価値を共創できる実践の力を育む。
- **Global**: 国際交流・国際共同研究により、地域文化・産業の未来を世界と創る人材を育む

地域貢献

研究と学びを社会のフィールドに拓く

- 地域と共に成果を実装し、知を社会へ循環させる。
- リカレント・リスキリング教育により、デザイン思考やAI・ITの実務知へ転換する。
- 専門職教育を強化し、寒冷地の暮らしと地域ケアを高度化する。

大学運営

未来への挑戦を支える組織へ

- 挑戦を可能にする大学運営の基盤として、迅速な意思決定と組織横断により新たな試行を継続的に生み出す。
- 事務局全体が研究戦略の推進役として、成果の社会実装と国際展開へ接続する。
- 高校・企業・行政との協働により、地域社会を教育研究の共創フィールドとする。

VII 運用

- 札幌市立大学では中期計画を達成するための実行計画として毎年度アクションプランを策定している。重点取組事項と関連するアクションプランを重点アクションプランとして位置づけ、自己点検・評価することにより長期ビジョンの進捗管理を行う。
- 急速な社会情勢の変化に対応することができるよう、必要に応じた取組の見直しや強化などを行い、柔軟かつ適切に重点アクションプランを推進する。